

## 5. 普及・広報活動

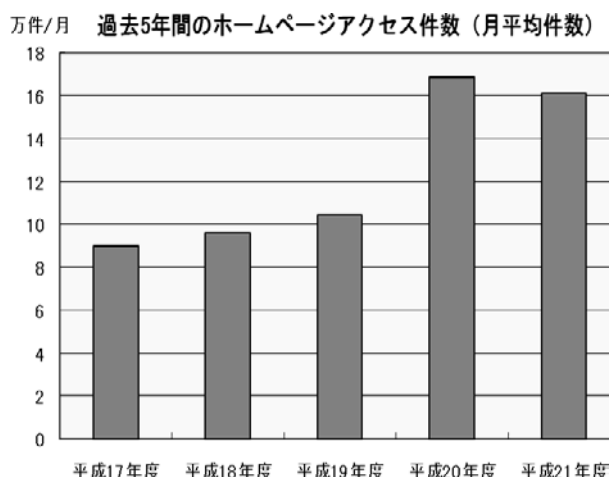
気象研究所では、研究の内容や業務について広く国民の理解を促進するため、気象研究所ホームページやパンフレットなどの媒体を通じて情報を発信している。

また、施設の公開は気象研究所が独自に実施しているもののほか、他省庁の主催する行事への協力や筑波研究機関連絡会、つくば市等の行事と連動し、効果的な普及・広報活動に努めている。

### 5.1. ホームページ

気象研究所のホームページは、気象研究所の研究活動や内容を内外に向けて積極的に発信することを目的として、平成7年12月から運用している。

気象研究所ホームページは、気象庁のホームページや関連研究機関からリンクが張られており、平成21年度のアクセス件数は月平均\*で約16万件であった。（\*平成21年度は平成22年2～3月の平均値）



ホームページアドレス：<http://www.mri-jma.go.jp>

### 5.2. 施設公開等

#### 一般公開（科学技術週間）

気象研究所では、科学技術に関する国民の関心と理解を深めるため、科学技術週間\*の行事の一環として一般公開を行っている。この一般公開では研究・観測施設公開のほか、ビデオ放映やパネル展示による業務紹介を行っている。

平成21年度は4月15日（水）に一般公開を実施し、140名の来場者があった。

\*科学技術週間とは

科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、わが国の科学技術振興を図るために設定されている週間。例年、発明の日（4月18日）を含む週が科学技術週間として設定される。

### お天気フェア

気象研究所では、高層気象台、気象測器検定試験センターと共同で、毎年夏休み期間中に「お天気フェア」を開催している。この「お天気フェア」では、研究・観測施設の公開やビデオ上映のほか、研究部ごとに特徴を生かしたブースを設置し、実験や解説を行っている。さらに、例年行っており参加者から好評を得ている、天気図の描き方と天気予報に関する講習会（天気図講習会）に加えて、平成 21 年度は水戸地方気象台の協力を得て、気象研究所がある茨城県の天気予報を担当している予報官の講演会を行った。

なお、このお天気フェアは、つくば市主催の研究機関スタンプラリー「つくばちびっ子博士」の対象イベントになっている。

平成 21 年度は、8 月 5 日（水）に以下の内容で開催し、3,047 名の来場者があった。

#### 講演・講習会

- ・ 「お天気予報官」のお話・・・・・・・・・・・・・・・・・・水戸地方気象台
- ・ 天気図講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・予報研究部

#### 実験・体験コーナー

- ・ 雪と氷で遊ぼう・・・・・・・・・・・・・・・・・・物理気象研究部
- ・ マグニチュード体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・地震火山研究部
- ・ 雨粒の形を観察しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・環境・応用気象研究部
- ・ 赤外線温度を測る・・・・・・・・・・・・・・・・・・地震火山研究部
- ・ 海が二酸化炭素を吸収する・・・・・・・・・・・・・・・・・・地球化学研究部
- ・ 空気砲で遊ぼう・・・・・・・・・・・・・・・・・・企画室
- ・ 地震の音を聞いてみよう！・・・・・・・・・・・・・・・・・・地震火山研究部
- ・ パラシュートってなあに？・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ お天気クイズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・気象測器検定試験センター
- ・ 紫外線をチェックしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ 放球体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ 雲を作ってみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・環境・応用気象研究部
- ・ どっちが塩水？・・・・・・・・・・・・・・・・・・海洋研究部
- ・ 浮かぶゴミ袋・・・・・・・・・・・・・・・・・・企画室
- ・ かんたん実験コーナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・企画室ほか
- ・ クイズラリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・企画室ほか
- ・ はれるんと写真をとろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台ほか
- ・ 地震体験車・・・・・・・・・・・・・・・・・・（協力）つくば市消防署

#### DVD 上映（気象庁作成の「はれるんによる気象庁業務紹介」ほか）

#### 観測・研究施設見学

- ・ 回転実験装置・・・・・・・・・・・・・・・・・・物理気象研究部
- ・ 低温実験施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・物理気象研究部
- ・ 係留気球・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ ラジオゾンデ・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ オゾンゾンデ観測・・・・・・・・・・・・・・・・・・高層気象台
- ・ 気象測器参考館・・・・・・・・・・・・・・・・・・気象測器検定試験センター

### 施設見学など

定期的な一般公開（科学技術週間、お天気フェア）のほか、主として学校教育の一環として行なわれる校外授業や海外からの来訪者などを対象に、必要に応じて施設見学の対応を行っている。見学内容は、見学の目的や実験の状況などを勘案し、その都度設定している。

平成 21 年度は 46 件の見学を受け入れた。

### スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、文部科学省が「理科大好きプラン」の一環として行っている取り組みで、気象研究所では平成 14 年度から協力を行なっている。平成 21 年度は SSH として指定を受けている 7 校を受け入れ、研究官による講義、実験、施設の見学などを行った。

- ・ 8 月 3 日 学校法人静岡理工科大学静岡北高等学校
- ・ 8 月 11 日 神奈川県立西湘高等学校
- ・ 8 月 26 日 愛知県立岡崎高等学校
- ・ 10 月 14 日 栃木県立宇都宮女子高等学校
- ・ 10 月 15 日 石川県立金沢泉丘高等学校
- ・ 10 月 21 日 岐阜県立岐山高等学校
- ・ 10 月 22 日 群馬県立桐生高等学校

## 5.3. 報道発表

### 気象研究所の研究活動の内容を含んだ気象庁の報道発表（定例のものは除く）

平成 21 年 7 月 24 日 新設観測点の緊急地震速報への活用等について

平成 21 年 10 月 9 日 温暖化の観測・予測及び影響評価統合レポート「日本の気候変動とその影響」の作成について

平成 21 年 10 月 27 日 国土地理院電子基準点観測データ（GPS データ）の活用による気象庁メソ数值予報の改善について～水蒸気データをとりこむことにより、予報精度が向上します～

平成 21 年 10 月 30 日 「台風の進路予測技術の高度化に関する国際会議」の開催について

※報道発表資料は気象庁ホームページを通じて公表されている。

### 気象研究所の報道発表

平成 21 年 6 月 1 日 人工降雨に関する集中観測実験の実施について — 科学技術振興調整費による「渇水対策のための人工降雨・降雪に関する総合的研究」 —

概要：気象研究所が科学技術振興調整費により行っている「渇水対策のための人工降雨・降雪に関する総合的研究」の一環として、四国地方（高知県及び香川県）にて人工降雨に関する集中観測実験を、平成 21 年 6 月 2 日～22 日に実施することのお知らせ。

平成 21 年 7 月 28 日 平成 21 年 7 月 27 日に群馬県館林市で発生した突風について（気象庁機動調査班による現地調査の報告）（前橋地方气象台との共同発表）

概要：平成 21 年 7 月 27 日 14 時過ぎに群馬県館林市で発生した突風によると思われる被害について、前橋地方气象台の職員と気象研究所の研究官が

気象庁機動調査班として現地調査を行った。その結果、館林市に被害をもたらした突風は竜巻であったことがわかった。

#### 5.4. 国際的な技術協力

国際連合気候変動枠組条約の非附属書 I 締約国では、第 2 次またはさらに高次の国別報告書の提出に向けた準備を進めているところが多くある。このため、当該国では、気候変動への適応の基盤となる気候変化の将来予測について、的確に行う技術の習得を望んでいる。(独)国際協力機構(JICA)は、気候変動が地球規模の課題であることから、途上国での取り組みは欠かせないと判断し、技術支援として気候変動への適応能力強化に関する研修に取り組んでいる。気象研究所は JICA に協力し、気候変化の将来予測に係る技術支援を行う受け入れ機関として研修を実施した。主なものは以下のとおり。

- ・メキシコ国国別研修「気候変動予測」コース
- ・アジア地域「気候変動への適応にかかる能力強化」研修

また、気象研究所における気象観測研究の知見等を活かした研修受け入れも行っている。主なものは以下のとおり。

- ・日中気象災害協力研究センタープロジェクト「境界層観測」コース (JICA による)

さらに、地震火山分野にあっては、1995 年以来、(独)建築研究所が行う「国際地震工学研修グローバル地震観測コース」において、地震波解析による核実験識別法の講義等を行うことを通じて、包括的核実験禁止条約の枠組み推進に貢献している。

#### 5.5. その他

研究の成果として得られたプログラムを、申請に応じて研究機関、教育機関に提供し、成果の普及に努めた。

- ・地殻変動解析支援プログラム MICAP-G

北海道大学、カーネギー研究所(米国)、(独)宇宙航空研究開発機構及び東京大学地震研究所で利用